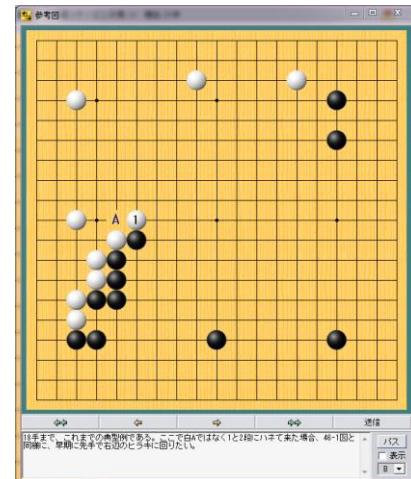


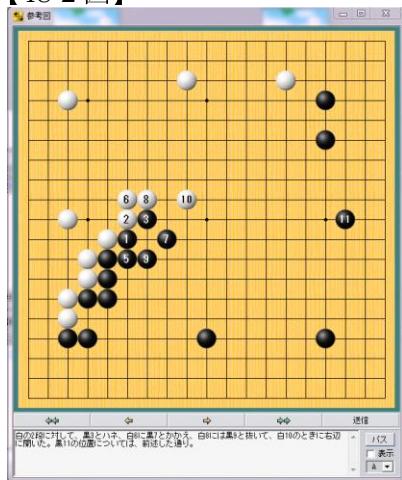
13. 新たなパターンの出現 2

【48-1 図】18 手まで、これまでの典型例である。ここで白 A ではなく 1 と 2 段にハネて来た場合、47-1 図と同様に中央の勢力争いで忙しくさせる作戦である。早期に先手で右辺のヒラキに回りたい。ここを継続したため、右辺のヒラキや白隅への侵入の機会を逃すのが、負けパターンの典型であった。

【48-1 図】

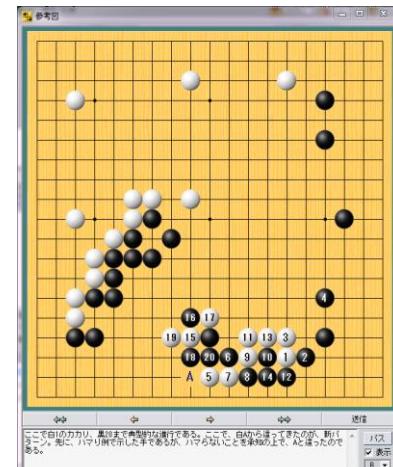


【48-2 図】



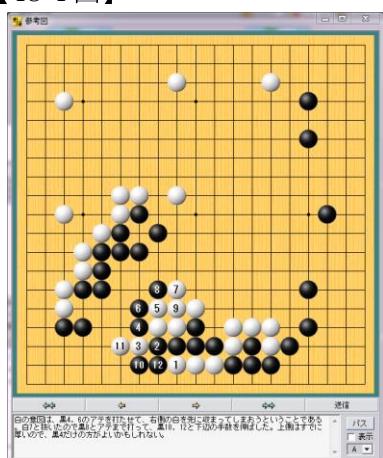
【48-2 図】白の二段に対して、黒 3 とハネ、白 6 に黒 7 とかかえ、白 8 には黒 9 と抜いて、白 10 のときに右辺を開いた。黒 11 の位置については、前述した通り。

【48-3 図】



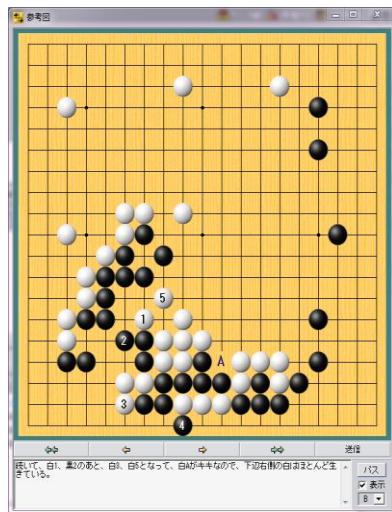
【48-3 図】ここで白 1 のカカリ、黒 20 まで典型的な進行である。ここで、白 A から這ってきたのが、新パターン。先に、ハマリ例 (41-1, 2 図) で示した手であるが、ハマらないことを承知の上で、A と這ったのである。

【48-4 図】



【48-4 図】白の意図は、黒 4, 6 のアテを打たせて、右側の白を先に収まってしまおうということである。白 7 と抜いたので黒 8 とアテまで打って、黒 10, 12 と下辺の手数を伸ばした。上側はすでに厚いので、黒 4だけの方がよいかもしれない。

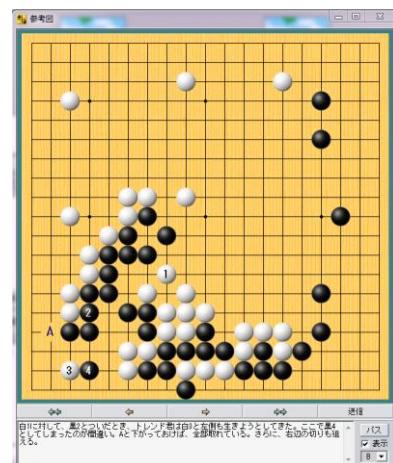
【48-5図】



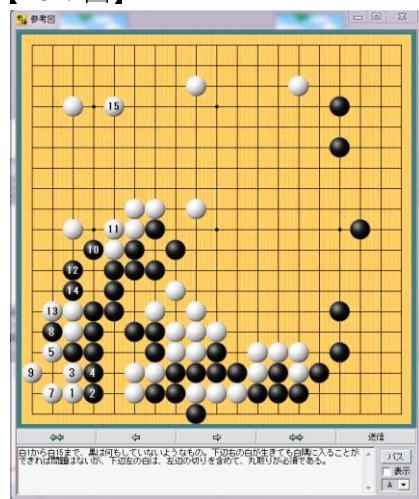
【48-5図】続いて、白1、黒2のあと、白3、白5となって、白Aがキキなので、下辺右側の白はほとんど生きている。

【48-6図】白1に対して、黒2とついだとき、トレンド君は白3と左側も生きようとしてきた。ここで黒4としてしまったのが間違い。Aと下がっておけば、全部取れている。さらに、左辺の切りも狙える。

【48-6図】



【48-7図】



【48-7図】白1から白15まで、黒は何もしていないようなもの。下辺右の白が生きても白隅に入ることができれば問題はないが、下辺左の白は、左辺の切りを含めて、丸取りが必須である。(以下略：白中押し勝ち)